
R6 年度 近畿老人福祉施設協議会 災害対策委員会【報告書】

本報告書は、令和6年度 近畿老人福祉施設協議会 災害対策委員会メンバーが、委員会活動を通じて意見交換した内容をまとめたものです。
所属老施協における取り組みや地域・行政との連携に関する実践報告書です。

令和7年4月時点

●令和 6 年度 災害対策委員名簿

No.	府県名	氏名	法人名	施設名
1	滋賀県	堤 洋三	(福)六心会	清水苑
2	京都府	荻原 理	(福)倣襄会	地域密着型特別養護老人ホームあゆみ
3	京都市	溝口 武美	(福)北桑会	なごみの里
4	大阪市	田中 綾	(福)ジー・ケー社会貢献会	グルメ杵屋社会貢献の家
5	堺市	古川 英宏	(福)堺福祉会	ハートピア堺
6	兵庫県	高松 竜平	(福)真澄会	博寿苑
7	神戸市	下田 修司	(福)すみれ会	長田すみれ園
8	奈良県	玉利 佳代子	(福)豊生会	ゆあほうむ榛原
9	和歌山県	切土 桂	(福)高瀬会	古座川園

●令和 6 年度 活動内容

期 日	会 場	人員	主 な 議 題
R6.05.09	オンライン (Zoom 開催)	7	・令和 6 年度の委員会活動について ・各府県老施協での取り組み状況、意見交換
R6.07.23	オンライン (Zoom 開催)	7	・各府県老施協での取り組み状況共有、意見交換 ・広域災害時に職員が出勤できない場合の対応等 について(情報交換)
R6.09.25	オンライン (Zoom 開催)	6	・各府県老施協で取り組んでいる研修、行政や地域 との連携に関する意見交換
R6.11.13	オンライン (Zoom 開催)	8	・各府県老施協での取り組み進捗報告、施設等での 取り組みに関する情報共有
R6.12.24	オンライン (Zoom 開催)	8	・各府県老施協での取り組み進捗報告、施設等での 取り組みに関する情報共有
R7.2.20	オンライン (Zoom 開催)	6	・各府県老施協での取り組み進捗報告、施設等での 取り組みに関する情報共有 ・R7 年度視察研修の打合せ ・役員改選



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

老施協の取り組み

■しが DWAT(事務局 滋賀県社協)への参画

- ・しが DWAT……登録計 286 名、登録団体数……9 団体
- ・うち滋賀県老施協として 58 名が登録
- ・研修の受講など、平素から災害時対応に備えている。

■能登半島地震への支援

- ・県老施協として、R6 年 3 月～5 月末まで、延 13 名、9 法人が被災地支援を実施した。
 - ・支援先 社会福祉法人礎会 グループホームなかよし(石川県能登町)
 - ・調整 能登福祉救援ボランティアネットワーク
- (写真は被災施設の状況)



自施設の取り組み

■能登半島地震への支援

- ・発災後から、R6 年にかけて、合計 6 名の職員を、現地へ派遣し、被災地支援を実施した。
- ・派遣先……石川県庁、金沢市 1.5 次避難所、志賀町一般避難所、高齢者施設(GH)

■地域住民・隣接施設と連携した防災活動

- ・地域住民と隣接する養護老人ホームと防災に関しての定例会議を開催。
- ・目的……平時からの防災意識醸成、有事の相互協力体制構築
- ・会議……隔月に 1 回開催
- ・連絡網……ライングループを組織、平素から災害に関して情報交換。



Pick up! ~こんなこと実践しています~

■地元自治会・隣接施設と共同で防災訓練を実施

避難に際し、車椅子の操作訓練



災害食の試食、炊き出し訓練

■地元中学校で開催される総合防災訓練へ参加



効果・課題・所感など

国内で毎年発生している広域災害だが、我が事として防災意識を持ち続けることは難しい。地域住民と福祉施設が定期で集まることで、お互いの防災意識を高め合う効果があると感じている。特に住民の中で活躍する「防災士」からもらう専門的な助言は大きな気づきとなっている。新興住宅を除き、旧来からある地元集落は高齢化しており、災害時にどのように助け合うか、今後の課題である。避難行動要支援者の支援について、具体的には動き始めておらず、地元自治会や自主防災組織と協議の必要がある。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

老施協の取り組み

- ・総務部会(災害対策担当)年4回委員会開催
- ・緊急ネットワーク(毎年の通報訓練)
府老協)災害ネットワーク(アルカディア:スピーキャンライデン)
の南海トラフ関連情報(状況確認用一斉 mail+ 電話)が頻回に
通知した為、再構築する。



自施設の取り組み

- ・法人施設に 72 時間非常用電源確保設備(補助金活用)の設置
(2024 年 4 月初旬)
- ・災害対応及び災害時備蓄倉庫の設置
- ・災害用備蓄用冷凍庫の購入
- ・毎月の防災委員会(BCP の見直し及び災害訓練の実施~DWAT 養成研修(3名)受講)
- ・地元自治会の自主防災フェスタへの参加(職員応援派遣)

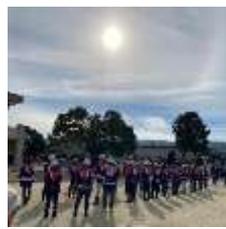


Pick up! ~こんなこと実践しています~

●コロナ禍明け初の総合防災訓練実施



●地元自治体との連携体制構築について



●法人)外部講師による施設内研修『風水害 24』



効果・課題・所感など

- ・南海トラフ等震度7以上の地震への対応や備えに不安を抱える＝予防への限界
- ・担い手不足(生産労働人口の減少)、新型感染症への対応に追われ人材教育及び訓練等の実施が年々困難になりつつある＝法定研修以上の機会の確保が困難～形骸化。
- ・DWAT への派遣対応が難しい(上記、事由と同様)
- ・設備等の維持管理が困難(人的、金銭的等)
- ・地域との訓練の実施に課題。
- ・行政等の関りが複雑で過去からある組織や制度が形骸化されているため、最新の防災に対する連携や制度に不安がある。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

老施協の取り組み

【京都市老人福祉施設協議会】

- ・事業継続検討プロジェクトにおいて、京都市と福祉避難所の在り方や直接避難等の協議、また介護職員の派遣協力等の検討をしている。
- ・京都市の「福祉避難所移送対象者の選定方法及び受入調整等に関するガイドライン」等に係る机上訓練への参画。
- ・京都大学大学院医学研究科・医学部長尾教授と感染症対策のアドバイザーとして令和5年8月から就任いただき、感染対策全般においてアドバイスを受けることができる体制ができている。
- ・KISA2隊開発による「感染症クラスター8」というカードゲームを役員研修として行い、会員施設への研修としても検討中。

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- 非常発電機を設置し、長時間の停電時に備えている。地域への給電についても検討中
- 京都市からの配布の感染症対策グッズを保管
- BCP 策定後、机上訓練を行い、一部避難経路、備蓄品の見直しを行った
- 最近、多発している山林火災に対応した BCP の必要性の検討

効果・課題・所感など

- ・介護現場の人材不足により避難訓練等が十分にできない。
- ・地域を巻き込んだ災害対策等への取り組みが不十分。
- ・蓄電池等の災害対策に必要な備品はたくさんあるが、コスト面で対応出来ない物もあるが補助金等の活用により対応していきたい。



【令和6年度主な取り組み】

老施協(大阪市老人福祉施設連盟)の取り組み

- ・「災害対策委員会」定例(隔月)で開催
- ・「防災研修会」年3回
 - 6月 「災害リスクを可視化して対策を考えよう」
 - 10月 相互応援協定を前提とした「ブロックごとの災害リスクや対策」
 - 2月 防災シンポジウム「能登への支援と受援」
 - ・基調講演 大阪公立大学都市科学・防災研究センター教授 生田先生 基調講演
 - ・支援報告 (社福)四恩学園 ふれ愛の里しおん地域密着型特別養護老人ホーム 坂元明子氏
大阪市社会福祉協議会地域福祉課 巽俊朗氏
 - ・支援・受援報告 社団法人石川勤労者医療協会 水上幸夫氏
- ・BCP研修
 - ・自然災害BCP訓練実施のための基礎研修、図上訓練 (施設編と在宅編)
 - ・入所施設用基礎訓練(施設) 通所・在宅施設等用基礎訓練(在宅)
 - ・入所施設用図上訓練(施設) 通所・在宅施設等用図上訓練(在宅)
 - ・自然災害BCP訓練実施のための個別訪問支援 18施設
- ・相互応援協定→令和7年度に協定の締結や訓練の実施を目指す
 - ・9月 各ブロック内施設顔合わせ会
 - ・10月 正副ブロック長報告会
- ・制度・政策予算要望提出
 - 10月 大阪市危機管理室と福祉局と回答意見交換
- ・大阪市危機管理室、大阪市福祉局、大阪市老人福祉施設連盟防災委員と関係者意見交換会を2か月に1度の頻度で開催
主な意見・情報交換内容
 - ① 個別避難計画
 - ② 福祉避難所と緊急入所について
 - ③ 高潮と津波避難・
個別避難計画の現状と課題については、大阪市では現在作成進捗は約10%程度留まっている。
(2024.10月時点) 作成支援者の不足や本人の支援拒否、町会未加入者への対応、認知症高齢者への支援などが課題として挙げられた。ケアマネジャーや介護事業所等との連携、ケアプランへの記載を通じた実支援者の明示、個人情報の取り扱いに関する工夫が必要とされ、今後の対応について意見交換がなされた。



Pick up! ~こんなこと実践しています~

自施設の取り組み

- 区内で領域を超えた方々との活動「すみのえ天水プロジェクト」へ参加し始めました。

雨水プロジェクト@すみのえとは???

大和川と大阪湾に囲まれ、水の神様「住吉大社」が構える大阪市住之江区。集中豪雨や台風、地震などの自然災害が多発する中で、このまちが安心安全のまちであり続けるために、「まちダム化計画」「防災コミュニティの形成」の2つを目標に活動しています。



- 3月にはフジ鋳業さんから、簡易型止水板についてレクチャーいただきました。近年、浸水被害が多発し、甚大化しています。有事の時に役立つ浸水対として、簡易型止水板は迅速に設置ができるという点で、かなり有効な浸水対策製品だと学びました。



効果・課題・所感など

災害時において、福祉施設は入所者の命を守ると同時に、地域の避難所としての役割も担う重要な存在です。BCP(事業継続計画)や個別避難計画の整備は欠かせませんが、その実効性を高めるためには、地域との連携が不可欠です。福祉施設だけで完結するのではなく、地域とともに考え、備えることで、支え合いの仕組みがより効果的に機能すると考えます。平時からの関係づくりと情報共有、地域包括ケアシステムの考え方を活かしながら、災害時の迅速かつ柔軟な対応に向けて、地域、市内福祉施設、さらには近畿圏の福祉施設同士の連携体制の構築を目指していきたいと考えています。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

自施設の取り組み

- ・いきいきサロンで、施設で取り組んでいる能登半島沖地震被災地応援プロジェクトの報告と、防災訓練を実施した。(4月・5月)
- ・他区地域包括支援センター見守りミーティングにて講師として被災地応援プロジェクトからの課題を発表。(5月)
- ・大阪府社協老人施設部会で取り組んだ「社会福祉法人らしさのある BCP 支援事業」の一環で、BCP 解説動画を Youtube に挙げる。(6月)
- ・三宝防災キャンプを三宝連合子供会、関西大学と協働で実施。(10月)
カセットコンロを使用した防災食調理や消防署から毛布を使った搬送訓練を実施した。関西大学の教授によるテント設営、輪島市での被災地ボランティア支援からの課題を共有し、学生による段ボールベッドの組み立てを行う演習を行った。

- ・施設のキュービクル入替工事に伴う9時間停電を利用し、特養で防災シミュレーションを実施。
新たに非常用電源として、2000~4000wの蓄電池を4台購入した。
医務室のワクチンやPCR検体の保管をするための冷蔵・冷凍設備、各フロアの冷蔵庫や利用者の娯楽のためのテレビ等に優先的に使用。



写真は、Anker のポータブル電源。

- ・ダイエー堺店のイベントに参加して、地区のハザードマップ・在宅避難物品リストを配布し、マンション防災を考えるきっかけ作りを行った。(11月)

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- ・堺市老人施設部会を通して、大阪健康福祉短期大学で12月に防災訓練を実施。
その前段階で、4月(関西大学教授・堺第1包括から能登半島沖地震の支援からの課題共有)
5月(アドベンチャープログラム)・7月(関西大学教授から阪神大震災後の学校の取り組み)
9月(短期大学から最近の学生の動向)と勉強会を実施。
11月にちゃんこ鍋を囲んでの事前練習を行い、訓練前日に短大でBBQ、入浴体験、泊まり込みを実施。
本番は13施設、7学校(大学、短期大学、高校)が参加する堺市全体を巻き込む大きな防災訓練となった。

入浴循環装置を使った入浴施設を設営し、入浴体験できました。
お風呂に長湯する人続出。



・当日は参加者をグループに分け、各ブースを回り体験等を行った。

ブースは以下の6つ。

- 関西大学: ライフハック・能登半島支援
- 大阪工業大学: ロボット
- 桃山学院高等学校: ペットボトルライト・水浄化
- 大阪健康福祉短期大学: 車椅子避難・段ボールベッド
- 消防署: 水消火器・搬送体験
- 堺市: 防災教室・避難行動要支援者

ブースを体験していく中で、各施設交流が図れ、お互いを知り、語り合える防災訓練となった。

その後、各施設紹介を学生に対して行った。



大阪健康福祉短期大学の学生による三角巾の使い方講座の様子。



消防隊による毛布を使った搬送訓練の様子。消防隊員と大学の先生の和気あいあいとした雰囲気。

効果・課題・所感など

- ・今まで特養のスタッフが交流できる機会はとても少なかったが、防災をきっかけに交流ができた。今後も特養自体が内容を考え、それぞれがブースを持つようにできるなど自分事としても防災訓練にしていく必要がある。また、その楽しみから生まれる空間に学生を巻き込むことで、福祉の仕事に興味を持つような取り組みになると実感ができた。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

自施設の取り組み

- ・令和6年11月11日に地域自治会主催の近隣の UR 団地での防災訓練に避難役などで参加。
- ・令和7年1月17日の尼崎市地域防災訓練に参加。
- ・令和7年1月29日に、市役所(包括支援担当・重層的支援推進担当・地域課)、武庫東包括支援センター(喜楽苑)、武庫西地域包括支援センター(真澄会)、喜楽苑・真澄会両居宅介護支援事業所が合同で、地震災害発災後の訓練を行った。また市役所と共に博寿苑にて給水訓練を併せて行った。
- ・令和7年2月25日に、特養・デイ・保育合同で水害避難訓練実施。昼食の用意を一部厨房ではなく5階のホールで行った。

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- ・市役所と他事業所と合同で防災訓練を図上訓練形式にて実施



- ・特養とデイと保育園で合同避難訓練を実施



効果・課題・所感など

市や他法人と合同で防災訓練を行う事により、防災対策の必要性をよりリアリティを持って感じる事ができ、参加者内において共有する事ができた。今後は、継続して行う事ができるのか、またその輪を広げる事ができるかがポイントと考える。法人防災対策に関しては災害対策の識者と共に見直す事を計画しており、より有効な BCP マニュアルに更新できる様努めていく。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

自施設の取り組み

- ・災害 BCP 訓練として LINE を使用した安否確認訓練を実施した。副統括者から主任 LINE グループに LINE を回し、各フロア主任からフロアの LINE グループに安否確認 LINE を回すという形をとった。
- ・訓練実施後に防災委員会で話し合った。LINE を回す役割のメンバーが被災した場合に、代わりに送るメンバーを設定し、折り返しの連絡が無い場合には15分程度待って連絡無しとの返信をするように決定する(概ね15分程度でどのフロアも返信できていたので)。

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- ・備蓄品の準備量を現在の 5 日程度から 7 日分程度に増やすように計画している。
- ・神戸市老施連主催の BCP 作成、見直し研修に参加して BCP の実践的な運用法を学習する。
- ・能登半島地震には2月に介護職員1名を1週間派遣する。高齢者対象の福祉避難所で介護業務に携わる。
- ・神戸市老施連の災害対策委員会にも参加し、市内の他法人の施設とも情報交換等連携を行っている。
- ・神戸市より依頼を受けている福祉避難所の訓練を実施した。ダンボールベッドの組み立て、非常食の試食など行った。



効果・課題・所感など

訓練を通じてあがってきた課題(つながらない場合いつまで待つか、施設が被災している状況で職員個人の安否確認をどこまでやっていくのか等)を話しあい、BCP に対する理解を深め、対応を具体的に進めることができた。今後も訓練、研修を通じて実践的な方向に BCP を発展させていきたい。



【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

老施協の取り組み

- ・今年度より奈良県老施協として災害対策委員会を立ち上げている。年3回の開催を予定。
災害対策に関する、現状の共有や情報交換を行い、今後の連携に向けての話し合いを行った。
- ・奈良県老施協として「BCPの重要性と災害から学ぶ対策事例」の研修を実施。また、同時に電気自動車の活用についての意見交換を行った。
- ・令和7年3月に施設長県内研修としてBCP策定支援のための研修を実施予定。
- ・災害時における奈良県社会福祉協議会と福祉施設法人との連携についての会合を実施。

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- ・施設のメンテナンス工事に伴う6時間の停電を夜間に行い、どの程度電力が確保されるのか、また、介護業務、利用者にとどのような影響を与えるのかについて確認を実施した。発電機の燃料消費量や蓄電池による照明の持続時間、ランタン、LEDライトの効果などの確認も行った。



※夜間停電時の状況を確認。

- ・ここ数年で急増している外国人スタッフに災害発生時の対応方法についての研修を進めている。わかりやすい日本語で、日本語に不慣れなスタッフでも理解しやすいようイラストなど多く取り入れる工夫を行っている。また、一人一人の日本語レベルに応じて、個別に伝える仕組みも行っている。



※イラストを使用したわかりやすいスライドを作成。

【令和6年度 災害対策に関する主な取り組み】

老施協の取り組み

- ・和歌山県老施協災害対策委員会の研修として、びわこ学院大学学部長教授の烏野猛先生を講師として令和6年12月1日(Web)、令和7年2月27日(集合)の二回研修会を開催し、「能登半島地震を教訓としたこれからのBCP作成ポイント」との演題でブラッシュアップ研修を行った。「液状化」「浸水」「土砂災害」がキーワード
- ・和歌山県より「災害派遣チーム」協力法人・チーム候補者の再構築検討・協力依頼があった。

Pick up! ~こんなこと実践しています~

- ・1月 備蓄の見直し 3日分→7日分に増加した。
- ・2月 古座川町福祉避難所の備品物品等の見直しを行った。
- ・3月 法人内各施設合同で災害シュミレーション訓練を実施した。
 - ・14時、震度6の地震が発生、ライフライン(電気・ガス・水道)が停止の想定で訓練。
 - ・特養・老健・ショートステイの各々の対応を確認。
 - ・電気については各施設に自家発電設置済であるが、運転方法を職員に周知徹底する必要がある。(参集してきた職員の誰もが使用出来るようにすることが必須である)
 - ・燃料の確保、保管が課題となる。
 - ・飲料水の備蓄増を図りたいとの声もあるが、保管が課題となる(備蓄については1月に購入済)

(地区)

- ・高瀬地区防災訓練に参加する。意見交換のよい機会となった。今後継続する事が必要。

効果・課題・所感など

- ・3月31日付、国から南海トラフ地震の見直し発表あり、紀伊半島(紀南海岸側)のほとんどの地域が震度7、津波18m、津波到達時間2~3分、陸の孤島と化すエリアである。応援が来るまで間どう耐え抜くかが課題となる。職員を守り、職員を活かす事が試されると思われる(有事に参集出来る職員の数は?)和歌山県下一の高齢化率(54.5%)の山間僻地の古座川町でご利用者様と地域の高齢者をどう守っていくかが大変大きな課題である。(職員・職員の家族も守っていかなければならない状況になると想定しておく必要がある)
- ・高齢・過疎の地区での合同訓練企画の難しさを皆で考える必要がある
地域住民に施設に避難して頂いたとしても、お元気な方には協力をお願いする事を前もって伝えておく事も必要である。

